

緒 言

地質情報研究部門長 牧野雅彦

本報告は平成 20 年から平成 25 年度にかけて実施している産業技術総合研究所の政策課題「沿岸域の地質・活断層調査」の平成 24 年度の研究活動を記録し、紹介するものです。本課題では、沿岸の海域と陸域を構造地質学・層序学・堆積学・地球物理学・地球化学・水文地質学など様々な手法で調査研究を行い、陸域から海域まで連続するシームレスな地質・活断層情報として整備することを研究目標としています。平成 24 年度は、平成 23 年度に引き続き石狩低地沿岸域の成果を中心に報告します。ご高覧いただき、活動内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚の無いご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告には、14 件の研究成果の報告が収められています。石狩低地沿岸域の調査研究では、勇払平野沿岸域及び石狩低地東縁断層帯海域延長部の反射法音波探査、勇払沖沿岸域陸棚の堆積物調査、石狩低地東縁断層帯の反射法地震探査や重力探査、千歳市柏台や長沼低地のボーリング調査、苫小牧沿岸域の空中磁気探査や海底重力調査、石狩平野等の地下水調査があります。また、海溝型地震履歴解明の研究は、日本海海溝南部に面する北茨城市の古津波痕跡調査についての報告です。そのほか、日本周辺海域の反射断面データベース化に関する報告もあります。

日本の沿岸域には人口が集中する平野が点在し、多くの人々が生活の基盤を沿岸域に置いています。沿岸域は、豊かな自然の恵みと人々の居住空間をもたらす土地であるがゆえに、そこで起こる地震や津波、液状化などの地質現象とそれによって引き起こされる災害は、国民の多くにとって脅威となっています。沿岸域において、活断層や地盤の地質に関する、正確で精密な地質情報を整備することは、安心・安全な生活を守る防災と、地盤の安全かつ効率的な利活用の見地から、非常に重要です。本報告をはじめ、沿岸域の地質・活断層の研究成果が、国民生活の安全と向上に寄与することを切に願います。